

平成29年度第4回協働事業評価会

平成29年10月13日（金）午後1時30分

本庁舎3階 302会議室

出席者：久塚委員、宇都木委員、関口委員、衣川委員、竹井委員、及川委員、伊藤委員、
吉村委員、平井委員、加賀美委員、高橋委員

事務局：地域コミュニティ課長、神原管理係主査、勝山主任、松永主事

久塚会長 第4回協働事業評価会を開催いたします。

最初に、事務局のほうから資料と進め方について説明をよろしくお願ひいたします。

事務局 では、まず本日の資料の確認のほうをさせていただきます。机上に配付をさせていただいておりますけれども、1枚目が本日の次第でございます。

次に、二つ目として資料1番、こちら評価書をつけさせていただいております。本日のヒアリングの中でご記入いただくなりご活用いただければと思います。

それから、資料2のほうが主な着眼点でございます。

それから、資料3がスケジュールでございます。

資料4が評価委員の名簿となっております。

以上ですけれども、このほかに事前配付資料といたしましてこちらのファイルのほうを送付させていただいております。本日お持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。大丈夫でしょうか。

資料の確認のほうは以上でございます。

久塚会長 発言の際にはお名前をお願いします。この委員会とヒアリングを含めて公開になっていきますので、記録を含めてこの場におられなくても後で議事録などを通じてですが、どのようなご発言をとということになる可能性もありますし、お名前をぜひお願いします。では、お願いします。

事務局 本日の流れでございますけれども、次第のほうをごらんください。最初に10分程度事業の概要と実施状況につきまして、実施団体からご説明のほうをさせていただきます。

事業課から必要に応じて補足説明のほうも行っていただきます。その後、30分間実施団体と事業課に対しての質疑を行っていただきます。質疑の後に25分間、委員と団体と事業課の三者による意見交換というお時間をとらせていただいております。委員のほうから事業課や団体へのアドバイス等がございましたら、この時間にお願ひできればと思っております。

ここまで終了してから、団体と事業課のほうにはご退会をいただきまして、委員の皆様だけで共通認識を持っていただくための話し合いのお時間をとらせていただく予定となっております。

流れは以上でございます。

久塚会長 特に、では外でお待ちですので中に入ってもらって。

事務局 はい、わかりました。

(特定非営利活動法人メディカルケア協会・健康づくり課担当職員着席)

久塚会長 最初に約10分で事業の説明をしていただきます。そして、担当課のほうで補足の説明があったら、その10分の中で補足をしてください。そして、その後約30分間のヒアリング、意見交換という流れになりますので、まず最初に事業説明ということですけれども10分。短いですが、この間視察させていただきました。それを含めてご説明いただければと思います。よろしくお願ひします。

事務局 では、よろしくお願ひいたします。

事業者 メディカルケア協会の小野でございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

先日は視察に来ていただきまして本当にありがとうございました。活動の雰囲気を感じていただけたかなと思っております。

きょうはヒアリングということで、まず事業の概要から、そして進捗状況についてお話しさせていただきます。よろしくお願ひします。

事業の全体的な目的とか、なぜこの事業が必要かということについては、もう何度もご説明もしておりますし、皆様も周知されていることだと思いますので、省かせていただいで、本年度行うことをお話させていただきたいと思ひます。

本年1年目ということで、大きく三つのことをさせていただく予定で進めております。

一つ目は、普及させていくための推進プロジェクトチームを編成して、土台づくりを行うこと。

それから、二つ目としまして、既存の地域活動団体や地域のキーパーソンの方々と、今後普及啓発をしていくための関係づくりをきちんとしていくこと。そして、地域の情報をしっかりとつかんで、新宿の特性を理解した上で、いかにその地域に広めていったらいいかということを見つけていくこと、そのためにまずは足を使って地道に一つずつ地域の中に入り込んでいくこと、こういったきっかけづくりが2番目でございます。

それから、三つ目といたしましては、その普及啓発をしていく上での推進役となるシンボルツールの開発ということで、新宿区オリジナルの体操です。楽しく続けていけるような工夫として、歌って踊れる体操ダンスを開発して、DVDと、解説リーフレットを作成すること、これら三つが大きな目標になってございます。

進捗状況でございますが、お手元の資料「推進プロジェクト進捗状況（9月時点）」にまとめてございます。

先ほど申し上げました三つの目標について、一つずつご説明させていただきます。一つ目の普及啓発推進プロジェクトチームの編成ですが、2つのチームを作りました。一つは「食べる力推進プロジェクト検討会議」で、4名の先生と健康づくり課と私どもがメンバーでございます。

慶應大学の里宇先生はリハビリテーション教室の教授で、新宿区摂食嚥下機能支援検討会「ごっくんプロジェクト」の委員長でもあり、「ごっくんプロジェクト」との連携をしっかりと組んでいくためでございます。また、摂食嚥下のリハビリの観点からのご指導もいただいております。

それから、藤本先生は摂食嚥下機能支援検討会「ごっくんプロジェクト」のメンバーであり、医師会や在宅医療のご活動から地域への取り組み、医学的な観点も含めてご助言を頂いております。

それから、奈良和子先生は「新宿区スポーツ推進委員協議会」から来ていただいております。開発した嚥下体操を今後広めていく上で実際に体操を行ったり、指導していただいたりとか、そうした具体的な活動を進めていく上でも大切なメンバーとして入っていただきました。

それから、中村廣子先生は榎町地区町会連合会会長で、実際に多くの地域活動もなさり、地域のことを熟知しておられるので、地域のニーズや課題を把握するためや、地域への入

り方やごっくんリーダー・コアリーダー等を見つけていくために、キーパーソンや地域活動団体のご紹介ですとか、ご助言をいただいております。それから、中村先生の活動団体にも実際に啓発活動に加わっていただき、参加者の方々からご意見など頂戴しております。

第1回会議は7月31日に開催しております、ここで本プロジェクトの目的、今後どのように啓発活動を進めていくか。また、開発のツールのコンセプト等々についてご意見をいただきました。また、地域の課題であったり、ニーズも含めてご助言をいただいたところでございます。

第2回、第3回は年内中に行う予定になっております。

それから新たに体操開発チームをつくりました。

役割といたしましては、きちんと医学的な視点を取り入れた体操にするという目的のために、歌詞や振りつけ、構成等のところで専門的な立場から積極的に開発にかかわっていただくこと。それから、メンバーは医療、介護等の専門職として、新宿で活躍していらっしゃる方ばかりなので、実際に啓発活動にもコアリーダーとして関わっていただきたいと思っております。

国立国際医療センターの医師で藤谷先生、それから歯科医師の蛭名先生、歯科医師会の役員でいらっしゃいます。そして、歯科医師の三浦先生、慶應大学言語聴覚士の石澤先生、歯科衛生士の市村先生、「新宿区スポーツ推進委員協議会」から奈良先生と、専門性の高い方々に集まって頂いております。現在6名でございますけれども、今後必要に応じてふやすことも考えております。

それから、区民の方々に対してはヒアリングの場を設けて、住民の方々のご意見を聞きながら新宿らしいもの、そして自分たちのものだと思えるような体操づくりに生かしていきたいと考えております。

体操開発会議の第1回を8月の下旬にいたしまして、体操の目的、コンセプト、今後のスケジュール等々について意見をまとめております。

どちらのチームも会議以外でもご意見を頂戴しながら適宜それを事業のほうに反映するというスタンスでやっております。

それでは二つ目に移ります。二つ目は区民の方々との関係性づくり、それから啓発活動を行うことでございます。そこで区民の方々への普及啓発イベントの開催を計画しております。2回予定しております、一つは11月中旬の西早稲田地域交流館まつりで時間と場所をいただいておりますので、そこで健康教育や嚙下体操ダンス、相談窓口の紹介等を

行いたいと考えております。

それから、もう一つは来年1月から3月の間を予定しておりまして、今のところ毎年3月に健康部が実施している「なるなるフェスタ」で一緒に行くことを検討中でございます。

それから、普及啓発活動を推進する担い手としての「ごっくんリーダー」の育成については、今まさにその仕組みづくりと、担い手となるコアリーダー人材探しを進めている最中でございます。色々な地域の情報を得る中から一步一步折衝して、調整して、地域活動団体や関係者、キーパーソンとなる方々とお会いして・・・というようなことを繰り返しながら、連携しています。

例えば、皆様に視察をしていただきました会食会ですが、食に関係する地域活動団体でしたら運営をしているボランティアさんも食に大変興味のある方たちなので、コアリーダーとしても地域の啓発活動にかかわっていただけるのではないかなという目的もあり、連携しております。また食事サービスの会は75歳以上の後期高齢者に対して食事の提供を行うという区のルールがございますので、利用者が食べる機能の衰えが顕著になると思われる対象者と一致していて、対象者が地域の中でお集まりになってくる可能性が高い。しかも月に1回とか2回とか、定期的に集まっていらっしゃるので、対象者に継続的に対応していくことができることも有意義です。運営ボランティアの方々と一緒に、利用者にもリーダーになっていただけるよう啓発活動を続けています。

利用者の皆様はごっくんリーダーになることについては大変協力的でございまして、ごっくんリーダーの役割としては「自分自身が食べる機能の衰えに気づくことの重要性を知り、大切な周りの方々、ご家族やご近所の方、お友達などにも食べる機能が衰えた場面がありましたときに、この啓発活動の内容をお伝えいただくこと」としているのです。そこに関しては皆さんやってみたいということで、啓発活動に行きますと資料を私にもくださいというような感じで皆さん集まってきてくださって大変ありがたいなということです。そういうふうな活動を続けております。

久塚会長 10分。

事業者 すみません。では、まとめに移ります。活動状況については資料に記載しております内容で、現在まで7カ所で行っております。

それから、三つ目の体操の作成については楽曲を東京音楽大と連携して作成することになりました。

お時間をオーバーして申しわけありません。

久塚会長 では、こちら側のほうから質問をさせていただいて、その中で補足があればまた担当課のほうという形をとりたいのですがそれでよろしいですか。

事業者 結構です、すみませんでした。

久塚会長 では、どなたからでも30分間時間がございますので、2時15分まで。発言、特に順番を決めておりませんので。

では、伊藤さん。

伊藤委員 ちょっと質問させていただきます、伊藤ですけれども。今の実施された項目の中で食事サービスの関係、7カ所かな、ありますよね。これのところに利用者の数、それと運営ボランティアの数、これは実績ですね？

事業者 はい。

伊藤委員 最初の予定はどのぐらいだったのですか。

事業者 予定はほぼ大体これプラス二、三名ぐらいでした。

伊藤委員 それぞれそういうことじゃなくて、まず何かやるときには何名の利用者、何名のボランティアというのをつくっていると思う。それが実績としてどうなったかということが必要だと思うのです。だから、今後そういう形で発表してくれるとありがたいのです。例えば8月4日、グループゆう、利用者30名、それから運営ボランティア10名とか、それが予定。実績がそれで15だとか、そういう形のものでやらないと集まったわ、いいねではなくて計画がいったのか、いかなかったのか。そしたらその計画に何で齟齬が出たのかとかそういう分析をして、今後必要なので。

事業者 はい、わかりました。

伊藤委員 質問というか、今後の進め方というか、例挙の仕方というか。

事業者 はい、ありがとうございます。

久塚会長 はい、ではほかの委員の方。はい、どうぞ。

及川委員 及川です。先日は楽しいイベントに参加させていただきありがとうございます。

質問なのですけれども、先日は参加してもうすごくアプローチがいいなと感じたのですが、具体的には食事サービスの会の方たちと手を組んで、そこで啓発活動を置くということで、新しいイベントを皆さんで立ち上げてやるのはすごく大変だと思うのですけれども、既に活動していらっしゃるところに入り込んで一緒にさせてもらってやるというのはすごく効率がいいかなと思いました。

それで、食事サービスの会が今この4件書かれていて、高齢者サロンなんか書かれているのですけれども、願わくば全地域に、多くの方々のところに広がっていけばいいなと思いますので、このほかにもこのような会というのがあるものなのではないでしょうか。皆さんご存じなのかなという点と、もう一つイベントに区のフェスタですとか、西早稲田の地域交流館のおまつりに入るというのもすごくいいと思うのですけれども、このようなイベントもほかに予定して、ご存じで広がっていく予定があるのか、その2点について教えてください。

事業者 はい、ありがとうございます。どっちから？

事業課 食事サービスのグループは、この新宿区内には16カ所プラスマイナスありますので、そこには1回3月に責任者の方たちの会でお話をさせていただいて、その中でも早速やりたいというところが幾つか手が挙がってきているということなので、そういう意味では新宿区全体にある意味分布しているグループなので、それが一つございます。

もう一つ目のイベントなのですけれども、どちらかというとその食事サービスのグループは、食というやっぱり食べたり飲み込んだりというこの今我々がやろうとしていることに一番直結しているグループなのですごくモチベーションも上がりやすいし、すぐ普及するリーダーになっていただきやすいのですが、一般の区民の方への普及啓発はある意味あまり関心のない方も含めてそういう大きな会場に、フェスタですと500人ぐらいみえるので、ブースを持って普及してもなかなかそこからリーダーとかという形にはなりにくいので、これもやってはいくのですけれども、一般的な普及啓発の形でどうしてもリーダーの発掘やリーダーの育成にはなかなか少し時間がかかるかなというので、どちらかというとその個別の具体的な動きのほうにちょっと力点を置いているというところでございます。

及川委員 すみません、もう一つなのですけれども、今のお話でイベント、西早稲田の地域交流館なので、やっぱり年配の方を対象にしたイベントということで、その関係で広げていくということよろしいのですか。

事業者 地域交流館自体が60歳以上の方々を対象としているような施設で、西早稲田だけではなくて区内に何カ所かあります。それぞれおまつりをやっていたり、いろんなイベントをやっておりまして、そういったところに今後お声かけをしていきながらというふうには考えております。西早稲田に関しましてはもう一昨年からつき合いがございまして、昨年もおまつりのときに「食べる機能」のお話をさせていただき、好評だったという経緯があって、また今年もお願いしますということで継続してやっているところです。

なので、今後も高齢者を対象としているような施設でやることの意義は高いと考えております。

及川委員 わかりました、どうもありがとうございます。

事業課 ちょっと補足なのですが、そういう意味で言うと高齢者をターゲットにするということは我々も随分いろいろ議論して、後期高齢者を中心に少し飲み込みの機能が落ちてくる人たちをターゲットにするのですが、ただその周りの人たちはもしかしたら介護をする世代だったりとかいろんな方たちがいるので、そこは先ほど及川委員がご質問をいただいたように一般の方にも知っていただかないと、そのターゲットだけをねらっていると恐らく広がりには欠けるかなと思って、一般のイベントもいろいろちょっと今見繕いながら考えているところです。

及川委員 そうですね。新宿区の私の周りのご家族でも意外とおばあちゃん世代と一緒に住んでいる方が多くて、やっぱり暮らしやすいまち、新宿は暮らしやすいまちなので嫁がれた方が戻ってきて親世帯と一緒に住んでいるということが多いのです。それでおばあちゃんの話、おじいちゃんの話がよく子供からも出るものですから、行く行くは高齢者だけのイベントではなく、大きなイベントに参入できたらいいのではないかなと思います。

事業者 はい、ぜひそうしたいと思います。

及川委員 ありがとうございます。

平井委員 いいですか、自己点検シートからでもいいのですか。

久塚会長 結構です。

平井委員 総合政策部長の平井と申します。よろしく申し上げます。

自己点検シートの2ページのちょっと2点ほどある。1点目が2ページのところで、1番の協働事業のあり方の①、計画づくりのプロジェクト、双方がどのように計画事項を組みましたかのクエスションの1番です。これはNPOさんのほうは率直な意見交換のもと改善策が必要なこととなったためと3番の評価なのです。区側のほうはここは5になっている。団体が3で区が5ですか。今度もう1個の16番も団体が3で区が5となっているのですけれどもこの違い、相違というのは課題として何がすべてだったのかなど。まだこれから始まったばかりなので、なかなかまだまだというのはあるのでしょうか。ちょっとその課題が何かというのを上げていただけませんか。

久塚会長 答えていただけるならどちらでも。

事業課 では、私から説明を。これはまさにこの自己チェックシートの効用というか、

やっぱりNPOさんと役所が組むというのは簡単なようで簡単じゃないということをつくづく痛感いたしました。というのは、役所は役所の論理があつてずっとやってきた一つの流れがあつて、それでわかっていただけたらと思つているわけです。しかし、現実にはやはりNPOは独自の活動をしてきて、それでまた一つの活動があつて、その目的も一応共有していただけたらと思つていても、やはり話し合いをしてみるとその話し合いの中でお互いの違いに気がついて、そこから新たなものを生み出していこうというまた次のステージに進めるというような意味です。例えば、最初は正直使う言葉、例えば一般区民という言葉も、例えば医療をやっている人から見ると、要介護の人たちに対して元気な高齢者みたいなイメージを持ちがちなのではすけれども、役所的には一般区民と言えば不特定多数の区民ということで似ているのですけれども、元気な高齢者と不特定多数の区民は重なる部分もあるけれども違う部分もあつて、何かイベント一つやるにしてもどちらをねらっているのかと云つて話がなかなかかみ合つているように見えながら、何か具体的に案をつくろうとすると、えっ、それは違うんじゃないみたいな、そういう食い違いはやっぱり感じたということです。それが話し合いをしていく中でやっぱりお互いに共有できてきたということで、役所側はちょっと楽観主義なのでうまくいっていると思つていましたけれども、やっぱりNPOさんからするとわかっていただけているのかなという心配があつたのではないかなというふうに思います。

久塚会長 NPOさんは。

事業者 おつき合ひするのが今年度初めてではなくて、お会いしたのは3年ほど前で、2年ぐらひは摂食嚥下機能支援検討会「ごっくんプロジェクト」の委員に入らせていただいたり、実際にイベントをご一緒させていただく機会もあつて、本年度初めてではなかつたのでむしろ安心し過ぎていて、わかり合えてやっているという感じでスタートしたと思ひます。今度協働として席を組んでいくことなつて、先ほどもお話がありましたけれども、私たちはNPOなので目的遂行のためにどこへでも直接行ってしまふというようなことがあつても、区の論理だつたり、いろいろな行政的な仕組みの中で、段取りや手順などやり方があり、そういうことをきちんと理解し合ひながらやつていくことが大切だなど痛感したこの半年でした。

だけど、それはとてもマイナスではなくて、そのことがあつたからこそ多分計画づくりに関しては、お互ひに協力できた部分もとても増えていったと思ひますし、信頼関係も高まつたと思ふので、今後に生かしていければというふうに考へておひます。

平井委員 小野さんがすごい正直に言いましたけれども、わかりました。そうすると最終的には4とか5になっていく？

事業者 そういうふうになればいいなと思って。

平井委員 目指してやっていく。

事業者 努力するというようなことを書いたと思うのですがけれども、今後もコミュニケーションをきちんととっていくということと、お互いにちゃんと敬意を払ってつき合っていくことが対等な関係かなというふうにも思いますので、そこを大切にしていきたいなと思っています。

平井委員 わかりました、ありがとうございました。

事業者 ありがとうございます。

久塚会長 よろしいですか。宇都木さん。

宇都木委員 宇都木です。今のお話を聞いて大変だということはわかりましたけれども、あるいはこの前の実際にイベントを見て大変だなと思いましたし、あと私もちょっとこういうものに経験があるものですから、皆さん方が広げるのは大変だなと思っているのですが、当初の計画から見て今ほどの程度順調に進んでいるのか、あるいはまたちょっとつかえていることがあるのかということが一つ。

それから、目指すべきはリーダーをたくさんつくろうと。つまり区内に高齢者を中心として区内にこういう飲み込みにおける事故なんかを防ぐために、それだけの地域的な取り組みができるのかということになるのだろうから、そういうことからするとリーダーというのはかなり大事なのではないかなと思うのです。

これの計画を見ていると、食事会はそれは食事会の中に入れていけるかもしれないけれども、一般区民にどういうふうにそこから拡大をしていくのかというのが姿が見えない。そこはこれからやるのでしょうけれども、どんなことになっていますか。

久塚会長 どちらがやりますか。

事業課 進捗状況が順調かどうかはちょっともしかしたらその話し合いをしていないのですがけれども、私は1年目が準備の年というか、かなり今ツールをつくったり、一つモデルとなるような地域を探したりとかということで着実な進捗状況かなと思っているところです。ただでき上がったそのダンスの体操がやっぱりいいかどうかで、今、委員ご指摘のようにリーダーになる人たちがやってみたいと思うかどうかで決まってくる。やれと言われてやるというよりは、やってみたいと思うようなそういう作品ができると、それ

こそ一気に広がってしまうと思うのです。そのダンスをつくるのにはさっきお話ししたように専門家だけではだめで、やっぱり音楽のすごく手なれた人たちとかいろんな人たちに関わってもらって、楽しくみんなが歌いたくなって踊りたくなるようなものをつくれるかどうかは鍵なので、ことしはそこにかなり注力をしています。それがうまくいくとききっと皆さんがユーチューブでパッと見たりするようになってくれるというふうに変期待しています。

事業者 広げていくことの苦労というのは本当におっしゃるとおりで、なかなか思い通りに一朝一夕でできていくものではないというふうに感じております。会食会から始めましたけれども、例えばこちらに書いてある高齢者サロンは会食会の利用者から「うちの地域でもやってほしい」とご紹介をいただいたもので、手ごたえとしては確実に広がっていているという感じです。

そこで、ロコミ的な形で本当に地域の中に必要と感ずる方たちが増えていくことによって我が地域でも、うちの集まりでもというように少しずつですけども、そういう着実な歩みも大切にしていきたいと考えていることが一つと、それからもう一つは協働事業でありますので、やっぱり区の発信力には期待したいなと思っていて、今、矢澤さんほうからありましたけれども、せっかくシンボルツールとして体操をつくりますので、いろんな関連部署の垣根なく、いろんなところで活用頂き、どこに行っても知っていただけるような環境づくりができていくことによって、区民の方々の目に触れる機会が増え、そして広がっていく可能性も高くなると考えています。

事業課 もう1個つけ加えてもいいですか。一般区民の方がこういう体操を自発的にドンドンするようになるかという、そう楽観的には思っていないで、何らかのきっかけがあってやるようになると思うのです。例えば先ほどのようにご家族の中にそういう方がいて、こういうのをやったらすごくよかったということで周りの方に広げていただいたりとか、やっぱり何かそれをやる理由が当然あつてのことだと思います。なので何か薄く押しなべてリーダーが育っていくというよりは、いろんなところでモチベーションを持つ方を見つけ出してしっかりとつないでいくという作業が、一般区民の方にも必要なのではないかなというふうに思っているのです、そういう意味では地域に密着したきめ細かい取り組みをしなければならぬかなというふうに思っています。

事業課 加えますと今スポーツ推進員の方に入っているのですけれども、今いきいき体操も広めてくださっている方たちです。その方も実は口の体操がいきいき体操

には入っていないからということで、ご自分で口の体操をつくって少しプラスでやっている方もいるようなのです。その方たちはいきいき体操にセットで広めたらどうというご意見もいただいていますので、今随分いきいき体操は広がってきていますから、そこにロバージョンとして入っていけるような感じで役所の中でも相談していければいいかなと思っていますので、単独で口の体操だけというよりはセットでいけると、そこに乗って一緒にいけるかなと思っているところではあります。

久塚会長 多分質問された宇都木さんは、本当にそれをやってねという気持ちでおられると思うのです。目的としてリーダーをつくっていくというのも大きな目的で上げられていますので、その具体的な手だてとして何をどうされるのですかというところに。

だから、1年目ですので、これ以上多分宇都木さんは追加の質問はされないだろうとは思いますが、来年怖いですが、どうなったのと聞くとと思います。ぜひそこは事業者と事業課でちゃんとやってもらわないと。

関口さん、さっき手が挙がっていたけれども。

関口委員 事業内容についてはもうほかの方が言っているのですが、私はちょっと前回採択のときにも幾つか指摘させていただいている点について確認させていただきたいのですが、まず一つが山梨県に出している事業報告書に皆さんが東京でやっている事業の記載がないというのはどのような理由があるのでしょうか。山梨県ないし内閣府のポータルサイトに載っているのですが、採択のときにも東京での事業の記載がなかった。先ほど確認したら山梨県でしかやっていない記載になっているのです。

久塚会長 もうちょっとかみ砕いて言うと、それをどうにかしなさいというよりは、なぜ出していないのとか見た人は見るわけです。どうなっていくかということ、新宿区は採択するわけじゃないですか。私たちは最終報告書というか、1年ごとに出すわけでしょう。私たちや委員が選んで最終的には新宿区が選んだと、採択したもので区民が、ああ、これが採択されたのだねとわかって、どういうところかなと見たら何もホームページなどから見るができないとなると、困りますよということです。結果的にそういうふうに見られる可能性があるのです。しっかりそこはやってくださいということを言おうとしているのだよね。

関口委員 初回はしょうがないと思ったのですが、今回は改善してほしい。

事業者 関口委員のおっしゃることというのもよくわかりましたので改善したいと思います。前回ご指摘をいただいた後に東京事務所のほうも登記を済ませておりますので、内

閣府のポータルサイトに掲載されると思います。それから、東京の事業内容についても毎年きちんと理事会等で報告もしておりますし、申請するに当たっても理事会をきちんと開いて、そこで認めていただいているということですので、私としてはきちんと順を追ってやるべきことはやっているということでした。ただ、それがおっしゃるとおり、もしかするとその内閣府のホームページになるのですか。そちらのほうに記載がなかったということについては、私自身が確認をしておりますので、そうなのかもしれません。

そこは見落としておりましたので、きちんと改善する方向でそういった外部の方々がこのサイトを見たときにわかるような形に直していきたいと思います。ありがとうございました。

関口委員 何かくどいのですけれども、ぜひお願いします。

事業者 わかりました。

関口委員 もう一つそれに関連して皆さん、情報発信というか、ホームページは、これはあるのでしょうか。

事業者 本事業の関連サイトが一応あるのですけれども、今構築中です。更新がなかなか進んでおらず、言いわけをするようではございますけれどもITに詳しい者があまりいないものですから、そういったところがおくれがちになっているということはあると思います。

ホームページも持っておりまして、その中で活動していることを出しています。そこにはほかの助成事業なんかもやっているのですが、事業ごとに掲載をしているのですけれども、それがいつも更新をしてきちんと動いているかと聞かれると、やはりおくれがちになっている状態ですので、そちらも今年度見直ししておまして、今年度中にはもう少しちゃんとしたものをお見せするような形で今つくっている最中です。

関口委員 今回の事業の内容が普及啓発系なので、この例えば皆さんのサイトを見た、サイトというかチラシを見てとか、そういう形で例えばメディカルケア協会で検索した方があのサイトを見ると、平成25年度の事業しか載っていない。それ以降更新されていないということだと、フェイスブックも一応見ましたけれども同じような状態で更新されていないということだと、せっかく関心を持った方がリーチできないじゃないですか、次のアクションに。今年度中に改善していただいて、せっかくの事業なので、いい事業をやっているならそれをしっかり発信できるような体制をぜひ構築していただきたいと思います。

事業者 わかりました、ありがとうございます。

事業課 主管課としても今お話があったことは、区民の人が関心を持ってそこにアクセスしようと思っても情報が出ていないというのは、大変私どもも残念なことになりますので、ぜひ今後は委員のご指摘のとおり結果になるようにしていきたいと思います。

関口委員 よろしくをお願いします。

久塚会長 では、意見交換を交えて時間がそろそろヒアリングと意見交換を少しミックスさせても結構ですから、2時40分まで時間がございますので意見交換の発言で結構です。

伊藤さん。

伊藤委員 先ほどの宇都木さんが言ったこととちょっとかぶったような、重複するのですけれどもこの事業の受益者。ここに四つ書いてあるのです。地域の高齢者、これは食事会なんかを見ればこれは受益者がいるということはすぐわかります。それから、この3番目、町会や食事会サービス団体、これもこの間の活動ないし、このレビューの先ほどの7カ所を見ればわかります。

これから重要なことが一般区民、高齢者を見守る知識の獲得ということを一一般区民に、先ほども代表が言われたようにこれは一般区民なので、そこに対してどんなアプローチすると一般区民に広がっていくのか。

これからやることで啓発活動の進め方に地域のキーパーソンにリーダー、コアリーダーを探すという、これがありましてイベント、啓発イベントをやるというのだけれども、この啓発イベントに集める仕掛けを考えないと、一般区民の人は先ほどから言われますが自分の家族、おじいちゃん、おばあちゃんがいて、それで嚙下に苦しんでいるというような人は行くのだと思うけれども、全く関心がない若い世代というか、そういう人と接触がない。結構難しいと思うので、そこら辺をどんな対象とするのか。それから、どんな集客の方法をとるのかとやらないと、結構これ書いてあるだけで難しいことになってしまう。

それと、あと次は4番目の早期発見。これは先ほど、この間やったような食事会だとか地域の高齢者サロンに行けばいるわけです、ある程度の人。けれど、そこでは限定された人。これをもっと広げなければいけないということを考えないと発見することは難しい。

この前の食事会でもあったようにどうですか、時々ですとか、時々詰まりますだとか出てくると、その場ではいいけれども、ではそういう場を20カ所、30カ所探してやるのは大変だから、先ほどからあるようにそういうようなイベントで対応するのか、それともそういう高齢者のいるところ。例えば新宿区のカフェだとかありますよね、やってい

る。ああいうところに行くのだとか、そういう形でかなり動かないとこの発見というのは難しいと思いますけれども。

そこら辺を考えてまだ始まったばかりだから、1年のうち半年。半年の間にそこら辺のスケジュールをつくってもらえば結構いいものができるのではないかなと思いますので、そこら辺を頑張っていたきたいのだけれども。

久塚会長 特に質問じゃなくていいですか。

伊藤委員 先ほど言ったように人数的なもの、場所的なもの、例えば10カ所で何十人、何百人。で、こういう問題点、それを改善して次の場所にこうやったらうまく集まってくれたとか、そういうサイクルを回してやるということがいろいろ重要なので。そこら辺を考えた計画を来年はやってほしい。

まだ先ほどから出ているように準備段階だということなので、いろいろと組み込んでいくことができると思いますからよろしく。

久塚会長 竹井さんと衣川さん、発言はございませんか。

衣川委員 はい。

竹井委員 私のほうからよろしいですか。ちょっとこの収支計画書のほうを拝見していて、来年度の話になるというか、人件費とか各費目がありまして、その中で来年度徐々に上がっていくというふうに見えるのです。例えば一般区民というところの48万が57万とか、費用が全体的にふえていく傾向にあることはいいとは思っていて、その分これから広げていくということがわかるのですけれども、逆にこの前年度のノウハウを生かして、そこをちょっと下げていくような工夫とか。

計画上は一応こういうふうに書いてあるのですけれども、これからちょっとこの部分をやっぱり工夫してさらにちょっと拡大できるのではないかなと。例えば人件費のところは事務局の方がどんどんノウハウを入れたりとか、あとはDVDか何かをつくってもう少しその費用を下げてほかのことにちょっと使ってみるとか、そういう何か工夫がちょっと得られるポイントがあればぜひお聞きしたいと思っていたのですけれども、何かあるのでしょうか。

事業者 人件費が増えていく、人件費のことですか。

竹井委員 人件費もそうですし、あとはそうですね、人件費です。

事業者 10万円ぐらい増えていくことでいいですか。

竹井委員 はい。

事業課 ざっくり言ってしまうと1年目にDVDを製作して、そこに準備の年ですのでツールを開発しまして、それを今度は地域に普及していく。また2年目はモデル地域を見つけて、それで3年目は現場に展開ということになるわけですがけれども、当然出ていく回数はふえていくので、DVDの製作は1年目で終わってしまって、その部分を活用させていただこうというふうに考えたのですけれども、やっぱり2年目、3年目に上手に少しノウハウが蓄積できるようにして、その部分はきちんと見直していくべきだということによろしいでしょうか。

竹井委員 はい。あと人件費は1個の例なのですけれども、そのほかの部分とかでも何か工夫で前年度の資産とかを流用して、次年度にこうつなげるような工夫が実はこの中に入っているのかなと思ったのですけれども、ちょっとそこが何かまだわかりづらくて、事業はドンドン続けていくと前年度のノウハウとかがたまっていってプラスアルファになるのですけれども、これは普通の掛け算になっている指標になっているので、実は次年度とかに向けてそういうのは何か施策が練られているのかなということを知りたかったのです。

事業者 おっしゃるとおりだと思うので、これはもし掛け算だったらもっと人件費はふえているはずと考えられるぐらい活動が広がるようにと思っています。ごっくんリーダーさんだったりコアリーダーさんを増やすことによって、むしろその方たちが動いてくださったり、その方たちがお話をしてくださったりするので、リーダーさんたちが積極的に活躍できるようにノウハウを提供しながら、リーダーさんたちを活用して広げていくというようにイメージしています。

つまり、単純に今やっているのと同じようにしてただ活動回数がふえていくというよりは、活動者のすそ野自体が広がっていくということなので、1年目につくったものとか、2年目につくったものを次の年、またその次の年というふうに、それ以降も続けていけるような形で蓄積をしていって、少なくとも3年でこの事業は一旦終わりますが、蓄積していった財産を活用していくというような立てつけで考えております。

竹井委員 わかりました、もう1点教えてください。さっきちょっと関口委員からもお話があったのですけれども、例えばITに詳しい方がいらっしゃらないという話があった中で、とはいっても何かこの事業の中でいろいろフェイスブックとかそういうところは多分やっていかなければいけないのかなという中で、その事務局の方というのは皆さんのほうでやっていくと思うのですけれども、普通に考えると費用がかさんでしまうのかなと考えたら、そういう何かバッファーではないのですけれども、そういう費目というのはこの中

で考えられているのですか。

それとも、ちょっと今改めて聞いて、実はノープランだったので考え直さなければというところに入っているのですか。

事業者 フェイスブックに関してですか。

竹井委員 そうです、情報発信と言ったほうがいいかもしれませんが。

事業者 情報発信に関してというのは、フェイスブック自体がさっきちょっとお話ししましたように今ホームページなどを含めて見直しをしている最中でございます。

竹井委員 それはこの事業とはもう別のくくりでやる？

事業者 法人としてそれをやっていますが、フェイスブックは大事なツールだと思っていて、やっていきたいというふうには考えているということなので、そこを情報発信の源としてこの事業にも生かしていける可能性はあるかなというふうに考えています。

竹井委員 多分そのITとかをやられる方というのは多分そっちのプロの方で、多分コンテンツをつくるのは皆さんだと思うのです。

事業者 そうです。

竹井委員 素材をつくるそのパワーがこの中に含まれているのかなというのが気になって。じゃないと、幾らそういうITのツールができたとしても、そんな上げる素材がないので多分とまってしまう。もし考えてなければスケジュールが多分ほかのこのお金を使って行ってドンドンとまって行って、全体的に後ろに倒れるはずなのです。

事業者 3年目にホームページをつくることになっておりまして、この事業自体の。そういうこともあるので、そこのところはきちんとそこに合わせた形で基盤づくりをしよう。関係者がフェイスブックなどを使って簡単に情報発信できるように指導もしていくし、ITを使いこなせるようにしていくということを別個にやっていかないといけないと思うのです。

竹井委員 使えるようにすればもう素材というのはこの中でつくれるようにはなっているということですね？

事業者 そういうことです。

竹井委員 わかりました、ありがとうございます。

事業者 一般区民に対しては恐らくITによる情報発信がとても重要なことになっていると思うのでそれは一つの方法で、高齢者の方々にはやはりフェイスブックというような形では広がらない部分があると思うので、やっぱりもう少し足を運んだり、1対1だった

り、顔を見てということは今特に1年目なので大切にしていまして、そこから参加をしていただくような、自らのこととして参加をしていただけるようなということに今すごく力を入れているという感じです。

竹井委員 そうですね、多分ドンドン事業で進めていくうちに、何か当初のプランとは違ったり追加する作業はドンドンふえてくると思うのですけれども、そこをしっかりと精査しないと、そもそも根幹のスケジュールがおくれていくので、お金もかさんで。そこはしっかり多分コントロールしていただきたいと思います。

事業者 ありがとうございます。

衣川委員 この間はありがとうございました。とても楽しく拝見しました。

質問というよりはすそ野の広げ方についてなのですけれども、スポーツ推進員の方が一本立ちしていろいろやろうとしているというお話なのですけれども、その世代の方だけに覚えていただくだけでいいのだろうかということはこの間見ていて思ったのですけれども、リズムもよかったし、すごく楽しくでき上がっているので、あれを高齢者サロンだとかベビーサークルに分かれて、私のところだけではなくもっと新宿区さんのところをうまく活用していただいて、イベントでの最初に体操にそれを使っただけとか、そういうことをしたらいいかなということを思いながら拝見していました。

イベントに出ますと動ける高齢者の方は大勢いらっしゃるもので、その方も覚えてくださって広げていったらいいなというふうに思っています。

事業者 ありがとうございます。

久塚会長 どうぞ、吉村さん。

吉村委員 すみません、ちゃんと読んでいなくて、開発するのが唯一無二の今までないものをつくるのかと思ったら、既にあるものを使われて、既に嚙下体操みたいなのは既にあるのをもっとバージョンアップされるのがこの内容なのですねというのが、違うのですか。全く新しいもの？

伊藤委員 歌と踊りというか。

事業者 嚙下体操ダンスは全く新しい視点の嚙下体操です。今まで当法人で嚙下体操ダンスを各種開発してきましたが、今回今年つくろうとしているものは、新宿区オリジナルのものです。

吉村委員 では、世の中にそういうものが一切ないわけではなくて、あえて新宿のオリジナルを今回つくるというのがミッションなわけですね？

事業者 世の中楽しくて継続できる嚙下体操がなかったので、当法人が最初につくったと思っております、それがこの間見ていただいたものなのです。

吉村委員 ごめんなさい、ちょっと行けていないので。

事業者 なので、バージョンアップというよりは、楽しく継続するためのツールとして、新宿の方々の特性を今一生懸命情報として集めながら、新宿区民だったらこういう音楽が好きだとか、歌詞の中に例えば新宿の地名が入っていたりとか、そういう新宿らしいもの、新宿区民が自分たちの嚙下体操ダンスだと思えるようなものを今年つくろうということで、全く新しいものと申し上げた次第です。

吉村委員 それで質問とかではなくてちょっと提案というか、なのですけれども、その一般区民の方に対して啓発のイベントを今後打っていくということですのですけれども、やみくもに一般の区民の方にこういうのに興味を持ってくださいというのもなかなか難しいところがあると思うのです。

既にいろいろなことでボランティアをされている方。すみません、社会福祉協議会なのですけれども、いらっしゃいまして、例えば高齢者の見守りのボランティアをやっていらっしゃる方とか、ほかにも一般区民のボランティアにも登録されている方がいて、社会福祉協議会ではそういう方々の地域的に集まる会を定期的にやっていたりもするので、だからそういう既存の集まりを利用されると、もっと割と興味を持ってくれる方にそのものが届けられるのではないかなというふうに思いました。

事業課 まさに社会福祉協議会にはぜひご協力をいただいて、ぜひ。

吉村委員 事務所に来ていますか。

事業課 実はちょっと伺いました。

吉村委員 割と早目に言ったださるといいかもしれないですね。

事業課 はい。

事業者 わかりました。

吉村委員 ことしはもうボランティアの交流会を11月にやるものですから、また来年度に向けてということで、多分相談に乗ると思いますので。

事業課 もうぜひありがたいお言葉をもうありがとうございます。さっきのちょっと補足なのですけれども、日本にある体操はパタカラ体操と言ってパパパパッ、タタタタッというそういう訓練の体操なのです。なので、だれが考えたかというトリハビリテーションの専門家が考えたので、当然一番口の動きにいい音を選んで体操をつくったのですけ

れども、今回のはそうではなくて一般の区民の方が歌って楽しくて、歌っているうちにそれ自体が訓練になるというものをねらっているので、それが少し先に1個や2個つくっていただいていたので、それをベースにしながら新宿区のいいものをつくりたいということです。

久塚会長 吉村さんの発言と竹井さんの発言は結局くっついているところがあって、わざわざ新たに事業という形でお金を使ってイベントを起こすというのはお金がかかるわけです。だから、既にあるものを利用して、あるいは1年目につくってある程度のところまでいったものを再利用といいますか、それをさらに活用するような形になっていくと、お金を単に足し算で増やしていくというのが予算のつくり方ではなくて、これは増えているようなものの中に前年度活用した分、例えば紙でも何でもたくさん買ったなら翌年度買わなくていいわけじゃないですか。

それをそのまま積み上げていくのではなくて、知識とかノウハウとかも1年ものを積み上がったものを2年目にそれをもう一遍活用するというような方法を考えていただいて、そしてそれが計画の中に出てくるような工夫というのがないと、ただこれだけ1年目、これが必要、2年目、これが必要と見えてしまうので、それと掛けて吉村さんはいろんなところで何かやっているのを利用してということと重なるのだと思うのです。

事業者 はい、もう本当に願ってもないお話なのでぜひ。協働事業で考えたのも、いろんな関連部署との連携があると思ってということもあります。今高齢者の方々に対して、本当にいろんなところで色々な取り組みが行われていると思うので、私たちは最初会食会から入りましたけれども、それだけではなくて地域包括ケアも含めて、既存の取り組みとも協力しながら入り込んでいけたらなというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願ひします。

久塚会長 だから、言ったら幾らでもある。

事業者 そうですよ。

久塚会長 計画書に書いてないような曜日とか時間帯で、それをこちらから評価するときに見せていただいたときにはなかなか感動するのですけれども、割とそういうパフォーマンスをやっていたらなということだと思うのです。

だから、せっかくいいことをやっておられるので、中身はいいことなので、これプラス方法として協働という方法を使うと。主体としてのNPOということがこう一緒くたにうまく組み合わせられないと、せっかくいいことをやっていることがかすんできますから。

では、関口さんが先に。

関口委員 ちょっとそのウェブ関係のところなのですけれども、日本財団さんの助成事業で飲み込み110番というサイトが皆さんの名前を検索すると出てくるのですが、これと今回の事業のサイトというのは何か関係というのはあるのですか。

事業者 今回のサイト？

関口委員 3年目につくるのですよね、ホームページ、ウェブサイト。

事業者 ああ、3年目のサイトのことですね。

関口委員 あるいは、今回先ほど指摘したとおりウェブでのリーチが足りないということならつくっていただくか、フェイスブックに投稿するのはやっていただきたいのですが、それをやっていただくとして、何が懸念されるかということ、こういうウェブ物の必ず注意しなければいけない点として、全く更新がないというサイトが多いということです。例えば、この飲み込み110番はどう更新されていく予定なのかということ、あとはそれと今回の事業とのまた新しくサイトを、ドメインをとってつくればそのドメインの費用だっかかる。そこをよくよく考えていただいて、日本財団さんがオーケーならうまく合体するとか、その辺はぜひ工夫していただきたいなと思います。

事業者 わかりました。

久塚会長 ご意見だけということですか？

関口委員 はい。

及川委員 及川です。2点なのですが、一つ目は先ほどからお話が出ていた広がるということの関連なのですけれども、町内会の方もしネットワークをお持ちでしたら一つのアイデアなのですが、ラジオ体操を夏にやっているのですけれども、そこに結構高齢の方も、あと子供たちも新宿区のラジオ体操はこんなに人気があるのかとびっくりしてしまうぐらい参加されているところもあるのです。

子供なんかはいつも同じラジオ体操第一と第二でおもしろくないみたいなことを言っていたこともあったので、もし地域振興部長さんもいらっしゃいますし、そのような感じで広げていったらまたいろんな方に広まるかなと思いました。

もう1点なのですけれども、別の事業の評価を見たときに、第一線で活動されていらっしゃる担当の方が、ここの団体は1人しかいないのかなとちょっと疑問に思ったことがあって、小野さんを中心にしてやってくださっていて、この事業に関しては総勢何名のチームということで団体としては動いていらっしゃっているのかを教えてください。

事業者 わかりました。団体のほうからは関わっているのは3人で組んでいます。それ以外に、いろんな先ほど出たような他の事業も行っておりますので、そちらでご協力頂いているさまざまな専門家やボランティアさん、連携先などに、この協働事業のほうにもお手伝いいただいているという状況です。

及川委員 わかりました、ありがとうございます。

久塚会長 では、あと残り1人ぐらいになりますけれども。

宇都木委員 宇都木です。行政の皆さんに、ご存じだと思うのだけれども、NPOのこういう活動はNPO側は期限がないのです。この事業は期限を切った事業であるということをお互いにきちんと認識してやらないとなかなか大変だと思うのです。

それから、もう一つはこのメディカルケア協会さんが、この新宿区内で幾つかの活動を独自にやっていて、それがいいことだから全部に広げようという活動じゃない、これが始まりではないのです。

この人たちが提案したことはなるほどいいことだから、これをやってみようかという協働事業になっているので、だから基盤がないというか、地域に。このNPOさんの基盤がないから、これを広げるためにどこをどういうふうにすればいいかということもなかなか難しいのだと思うのです。

だから、もっといろんな例えばさっきも意見がありましたけれども他の団体、NPO団体、高齢者支援をやっている団体ともう給食はここは始まったからいいのですけれども、連携するとか何か考えないと。

だから、僕は、私たちの経験で言うとやっぱり医師会です、特に歯医者、年寄りが多いから。歯医者に看板を張っておいてもらうといつ、何か、イベントの看板なんか張っておいてもらうと意外といいのではないかと。私たちのごっくんとは言わないけれども、私たちのやっている、うちのほうの地域でやっているのは、もともとは歯医者の先生が中心になって始まったのです。だから、歯科医師、歯科の先生から始まっているからそこで直接呼びかけて幾つものグループをつくってやっていますけれども、何かそういうふうに行かないと、期限が切れている中でいいことだからということだけで行ったり来たりしていると、目的がどこまで進むのかなということになるので、そこは相当やっぱりこれから3年ですから。3年である程度の、ああ、よかったねというのが出てこないといけないので、そこは相当力を入れてやってもらったらいいいのではないかと思います。

事業課 ありがとうございます。

久塚会長 では、ヒアリングを含めた意見交換はここで一応終わって、今度は内部でのヒアリング実施後の意見交換に移りたいと思います。

今日は担当課とNPOさん、どうもありがとうございました。

事業課 どうもありがとうございました。

事業者 ありがとうございました。

(特定非営利活動法人メディカル協会・健康づくり課担当職員退席)

久塚会長 高橋さん、どうでしたか、今のやりとりを聞いていて。

高橋委員 ありがとうございます。やっぱり広げることが一番難しいなというのは、またつくづく思ったところなのですけれども。きめ細かく特に一人一人開拓していくという手法と、広く浅くといいますか、そういう手法とあると思うのです。そのバランスかなと思っていて、言ってしまうと質と量の。量を広げれば質が下がり。

久塚会長 そう、というかやっぱり委員の方、それから先生の方の質問、指摘を聞いていると、やっぱりあなたが言ったみたいに個々の高齢者、そういうのが必要な高齢者をねらっている部分と、全体にこれはもう人口構造上仕方がないし、こういう事柄であるのでみんなにということをやろうとしているのです。

高橋委員 そうです、そこにこだわっている気もする。

久塚会長 確かにこういうことを考えたら両方やらなければいけないのだろうけれども、主な目的というのは最終的にはリーダーをつくって広がっていくようにということなので、広げていくということなのでしょうけれども難しいことだと思います。

高橋委員 そうですね、ある程度割り切りも必要かなと思っていて、その少し敷居を低くしてたくさんの方に知っていただけてまずは参加していただく。そこから少しずつみんななでレベルを上げていこうというやり方に割り切れれば、そういう方法である程度広がるとは思うのです。

だから、最初から質を求めてしまうとなかなか広がっていかないと思うので、そのバランスをとりながらだとは思いますが、ある程度割り切って数をまずという手法もありかなとは私、個人的には思っているのですけれども、ちょっとその辺はまだ意見交換もあまりしたことがないので、その辺もちょっと話し合ってみたいなど。

久塚会長 それぞれの方が自分の考え方を持っていらっしゃる方ですものね。それぞれ

やっぱり自分の考え方がおありでしょうし、そうはいつでも事業として進めているのだけれども。

高橋委員 求めているところはみんな一緒なのですけれども、やっぱり何となくNPOの方が今年入れて、予防ができればというところが目指すところなので、そこはもう間違いない。

久塚会長 だから、難しいのは評価する私たちが実際に大変で、予防ができたということ。予防というのは本当に難しく、一遍かかって治癒したというのはわかるのだけれども、予防というのは倒れる前、やっていなくても予防できているみたいに思っている人たちを予防するわけですから。

高橋委員 そうですね、効果が難しいというか、見えにくいですね。

久塚会長 何が予防の効果かというのはわからないですね。

関口委員 正直言うとだから今日のご担当の人は頑張っているというのは見えました。

久塚会長 よく頑張っているのだ。

関口委員 それはわかります。

伊藤委員 他のを土台にして新宿の土台にならないのか、ほかでやってきたものをこういう嚙下のやつに使えるものはないのという、そこら辺のレビュー、具体的にわかるようなものがあるといいよね。八王子でやってきたのは、ここは今回のにも取り入れていくとか、そういう回し方というか。

久塚会長 そうはいつでも今回のこの事業に関しては、そこまで広げてこちらはたまたま情報を見ているだけなので、この採用されたそこをどうするかというところはしっかり評価して、そこから広げていくという程度の以上のことをあまり引っ張り出すと評価のやり方に少しずれる可能性があるから。今回のことを中心にそこから広げていく分には構わないけれども。

関口委員 新宿区のこれについてもこの3年の期間だけで終わるのではなく、なにか続いていてほしい。

伊藤委員 生かしてほしい。あとこの運動は場所も要らないし、極端なことをいうとやり方を覚えれば食事の前にできる。嚙下の体操だから、そこまでやらなくても、さっきパタカラだってパタカラと言うだけでも。パパパパパッ、タタタタッとか、そういうのがいろいろ今度はあるのだけれども、それと一緒にまずは使うのはここだから、覚えたら逆にできるわけで。

宇都木委員 一番手っ取り早いデイサービスなんか何でやらないのだろう、行かないの
だろうか。あの人たちは予備軍だよ、みんな、デイサービスは。この給食の人たちなんか
は食べに行っているだけで元気があるからまだいいけど、配食されている人たち、うちで
動かない人たちなんかは、やっぱりそういう人たちが出てきて一緒に何かやることだとか、
デイサービスだとか。

伊藤委員 そこでどんな食べ方をしているか。例えば食べる前どんな雰囲気、それから
食べた後どんなにしたか、そこら辺の一連の流れを見ないと。それを見るというような話
はしたけれども。あれ、それをやるとしたら動くにしても真ん中にいた人、矢澤さんが動
くのでしょうか。

高橋委員 協働事業ですので当然一緒にやります。一緒に動いています。知恵を絞って
いるんなところに、もうデイサービスという話も出てはいました。

吉村委員 私、これを見てちょっと自分がやっていた協働事業を思い出したのですが、
ワーク・ライフ・バランスと啓発、やっぱり啓発というとDVDとホームページなんだな
と思って。ホームページは作るのはいいことなんですけど、継続するのがすごく大変。結局
立ち消えになってしまうと初期投資とか全然移管できないのです。

だから、無理して最初に提案したからと絶対そうではなくて、その辺は臨機応変に見直
していったほうがいいのではないのかなというふうに、経験からすごい思います。

平井委員 ちょっといいですか、会長。実際これごっくんリーダーって、どうやって育
成して行って、どうやって広めて行って、どうやってモデル地区でやって、どうやって広
めていくかという話が全然なかったんで、わからなかった。ごっくんリーダーという人た
ちはどうやって活動していくのか、勝手にもうやってくれとやるのか、その仕組みも聞け
なかった。

ちょっと全体的にこれ、さっき予防の話がありましたけれども、確かにこれは啓発が目
的になっているので普及をどうやって評価していくのか。この会自体もどうやって評価し
ていくのかということ。ちょっとそこら辺がわからなかった。

そして、今回いろいろ話があったので、それはまた次のときはきちんと改善されていく
ということですね。

久塚会長 そういうことです。だから、1年目だよな？採択されて走り出して半年ぐら
いですかね。

平井委員 スタートしたばかりなので。ただし、そうはいつでも半年やっているんで、

今後の話とかも、あまり聞けなかったのが残念。

久塚会長 だから、周りに慶應大学の医学部関係というか、その似たような誤嚥みたいところだとかいろんなところとつながって、そういうところから先生をお願いしてということで、現場を見ると一生懸命スタッフを集めてこの地域で来ていただいてこういうことになっている。だけど、あれがみんな解散となると、区の負担する方とNPOの方という感じにもったいない。あれだけ来ていただいている。

それから。私、今日のプレゼンテーションを聞いていて、思いがあって一生懸命お話ししているのはすごくわかったんだけど、自分たちがやっていることをうまく表現できていないだけではないかなとは思いましたがけれども。実際にはできていないということではないような気はするのですけれども。

部長さんがおっしゃったようにこれから先のこれについての評価、それを含めてわからないことがあれば質問を投げかけて作成していくことになりまして、次年度ということについては当然、今日質問あったのと、あれ、どうなったのという話になってくるわけです。

平井委員 今年もやっていた防災のやつも同じような感じで、結局あれも啓発でどうやってはかるのかというのがありましたけれども。

久塚会長 ええ、三種三様ですよ。

高橋委員 こういう動き、区民と一緒に進めていく健康づくりの動きというのはやっぱりこれからはすごく重要だと思っていて、やっぱりこういう流れは正しい方向だとも思って、ただし随分難しいことは承知していますけれども、やはり区とNPOと一緒にやってより効果的なことができるかなと思っていますので、本当にしっかり見守るところから一緒にやっていく覚悟はあります。

伊藤委員 昔助成金かな、出したところで、コーヒー、カフェ。ああいうところでも行って飲む前にやるとか。NPOでそこがコーヒーを毎月なのかな、毎週土曜日なのかわからないけれども、そういうのがあるから。

吉村委員 週1、月2回。

伊藤委員 そういうところに行けば、まずは高齢の方ばかりだから。

高橋委員 本当にそういう普通のグループに行こうという考え方はしっかり持っていますので、そこはこれからやっていくのだと思います。

関口委員 2年目がだから、次回が大変。次回の結果がすごく重要です。今回は1年目なのでと思います。次回はちょっと楽しみだと思って。

宇都木委員 これ、区だけでやる事業ではないから、協働事業となるとやっぱり区民に対してこの協働事業はどう進んでいるかということを説明しないといけない。行政内部だけの問題では、ここが悪かったから来年はここを直してこうやりましょうという話でいいかもしれないけれども、やっぱり協働事業となるとちょっとニュアンスが違うから、どれだけ区民の中にこういう事業のいいところが入っていくのかというところが抜けてしまうとNPOと協働した意味が薄くなってしまう。

だから、おおよそ新宿区の全体が眺められるかなというのと、この事業自体はいいことだからということだけでやってしまうと広がりがなくなってしまうと思うので、がんばってほしい。

久塚会長 そろそろ、よろしいでしょうか。では、以上で、第4回の協働事業評価会を終わります。お疲れさまでした。

— 了 —